



東京都里親
アキコ（仮名）

子なし+共働き夫婦が里親になったら

里子の養育をして2年4ヶ月ほどになります。子育て経験がなく、フルタイムの共働きで、大家さんの2階に借家住まいです。紹介された当時、里子は1歳半で、笑顔の可愛い女の子でした。私と里子の年齢差はちょうど50歳です。

東京都では概ね4週間の長期宿泊を経て措置決定となります。この間、保育園や公的な一時預かりなどは基本的に使えません。約1ヶ月、2名のうちどちらかが休みを取るなどをして、必ず子どもを見なければなりません。週1回2時間ほど、外せない打ち合わせの時間にパディチームに来ていただきて、里子を見もらいました。3回ほどだったと思いますけれども、大変助かりました。

措置決定すると、子育て経験のない私たちにとっては保育園の先生はとても心強い味方でした。具体的な対応や言葉がけ、成長過程に合わせた遊びを教えていただきました。その他、図書館や、近所の方、習い事で通っている地元の阿波踊りの連でも面倒を見ていただき、商店街でも声をかけていただけるようになりました。

里親ならではの問題も確かにあります。実務的なところでは、支援や補助の利用申請のサポートがあると嬉しいということ。それから中途養育の問題です。子育て経験のない里親にとっては、何が困りごとなかよくわからず、子育てはこういうもののかも知れないと考えてしまいます。

試し行動なども、目の前の里子の行動にラベルがついているわけではなく、結果的にうまく対応できたのかわからないまま、課題感は他に移つてしましました。

長期宿泊時に受けた支援	
パディチームの訪問支援	子ども家庭センター
・リモートワーク中の家庭内で借宿	・搬送決定後、保育園が始まる前に利用
・道の駅2箇所を巡回、オンラインミーティングの開催	・預かり中の様子をメールにて渡してくれる
・事務局に連絡が届くまでに、預けられたパートナーさんと連絡が取れていた	・便乗してくださった方から声をかけていたい
・東京都が扶助金の一時預かりその後も扶助金になっている	・翌日自分で受けた時刻が決まっており、商量はできなかったりそのまま行なう
制度の開拓として認定が進み、見直されている	

共働きはとにかく時間がありません。里親同士の預け合いも良いと思うのですが、預かる側になれないため気兼ねしてしまいます。少なくとも子どもの小さい今は余裕がないですし、余分な部屋もありません。里親サロンは1度出ましたが、その後はなんとなく億劫で行いません。最近になって改めて、同じように生みの親と離れて暮らす子どもどうしの交流になるという側面に目が行きまして、行っ

た方がいいのかなと思い始めているところです。

里子を迎えて私たちが気づいたことは、周りの人、知っている人もそうでない人も含め、人の温かさでした。ただ、これに気づくにも心のゆとりが必要です。課題の解決だけではなくて、ゆとりにつながる支援は全部嬉しいし、ありがとうございます。

子育てで困ることはもれなく里親も困っていますので、まずは子育て支援をガンガン進めていただけると嬉しいと思います。里親も実親も子どもと一緒に手探りで1日1日、関係を築いていくことに変わりはありません。子どもの思いに真摯に応えながら、解決を焦らず、課題を宙吊りにしながらも、あきらめずにいられるように、お力を貸していただけると、とても嬉しいです。

利用した、していない...

里親サロン

- ・親子の内での里親はもともと世話をまつてないことが多いですが、新規里親、再働き里親家庭の「新的問題」の時間
- ・里親サポートが利用できるような働き方ができれば
- ・ピアサポート
- ・預かる子はなれないことから、関連性ゼロからの判断はなんだか気兼ね
- ・子どもたちの交友になると、という裏事情で初めてお会いするお母さん
- ・オンライン登録会は、自分が他の誰よりも開拓してだけ参加していた、他の声と情報収集が出来るのはよい
- ・乳児院のホームカミングデーのような行事があると、里親の間で連絡が取れて、里親さんと会えるので、会員登録をやめておるだけに行けるようにしている
- ・今後他の里親と親しくなって、同じ境遇の子どもも同じ境遇の里親にはまだいるか



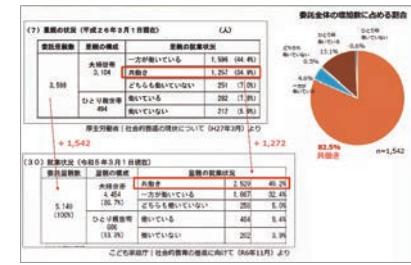
NPO 法人パディチーム
濱田壮摩（理事）

共働き里親の増加

アキコさんの発表に関連して今日、一番強調したいのはこのデータです（下図）。上の表が平成27年の資料で、下が令和6年の最新のもの。委託されている里親数と、里親の就業状況について示しています。

共働きが約5割になっています。そして単純に5割というだけではなく、増加数に占める割合を見てみると、この間に増えた1500ほど里親のうち、実に8割以上が共働きだということが読み取れると思います。

平成28年に「新しい社会的養育ビジョン」が示されて、里親を増やしましょう、という流れになった結果として増えた里親さんは、8割以上が共働きだったということです。施策を考える上でも重要なポイントなのではないかと思います。



クロストーク & 質疑応答



Q：里親自身からするとレスパイトケアは利用しにくい？



A：「子どもが不安になるからよほどのことがない限り、これは使わないでください」と（支援機関の担当者に）言われた方もいらっしゃるし、里親は自分がなると言ったのだからと、我慢する方もいらっしゃいます。



Q：所管の地域では「ファミリー・サポート・センター」は一般家庭と同様に利用できますか？



A：利用することはできますが、協力会員が足りません。今「ちょこっと」との利用は養子縁組里親に限られているのですが、ファミサポと同様に養育里親も使えるよう、児童相談所や各関係機関との協議を進めたいと思っています。



Q：共働きの里親委託を進めるために、どんなサポートがあったらよいと思いますか？



A：やはり一時預かりが一番大きいですけれども、職場の理解などがもっと進むといいなということもあります。



A：私も一時預かりをしていただけたらありがたいと思った時期があります。私は共働きと言っても非常勤で、保育園に入れませんでした。なので、自分が仕事の日にどうするか心配がすごくありました。



A：実際に私も担当したケースで、長期外泊中の一時預かりや、委託後すぐに保育園に入れないケースもありました。オンライン会議の間に2～3時間だけ外に連れ出してほしいというケースや、民間の保育園の一時預かりを利用できたけれども、終了時間に間に合わないので迎えに行ってほしいというケースがありました。

お問い合わせ

